

英語科学習指導案

指導者 伊藤 美絵

- 1 日 時 令和5年5月11日(木) 第5校時(15:05~15:55)
- 2 学年・組 中学校第3学年1組 計39名(男子17名, 女子22名)
- 3 場 所 3年1組
- 4 教材名(題材名, 単元名) Unit 1 Sports for Everyone
- 5 教材(題材, 単元)について

本題材は, 中学校学習指導要領(平成29年告示)の(2)読むこと (ウ)「簡単な語句や分で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ, 物語などを読んで概要を把握する活動」及び (エ)「簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで, イラストや写真, 図表なども参考にしながら, 要点を把握する活動。また, その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動」に重点をおいて指導を行う。本題材は, 障がい者スポーツを扱った教材である。障がい者スポーツについて利器を深めることで, スポーツが障がいの有無にかかわらず, だれにとっても楽しめるものであること, そしてスポーツには人々を結びつける力があることに気付かせたい。

言語材料としては, これまでの経験を表現する現在完了形(経験用法), 「AがBを~にする」と表現できる make+(代)名詞+形容詞, 根拠を述べる際に使用できる SVOO(that 節)を扱う。よってこの言語材料を活用し書かれている話題に対して質問文に答えたり, 質問を自ら作ったりすることを通して概要を捉え, その話題に対しての自分の気づきや考えを表現する力を育成する。

本学級の生徒は, 学級活動での班活動では意見を出し合い協力して取り組むことができる生徒が多く, 関わりようという姿が見られる。英語に関しては既習の知識が定着し活用する力が身に付いている生徒や, 逆に既習事項の定着が不十分で学習への意欲がもてない生徒がいる。基本的な英語表現を取り入れた活動を工夫して帯学習で行うことを通して, 英語学習への意欲を高めていきたい。またパフォーマンステストなどを通して, 自分の思いや考えを伝えようとする態度を養うとともにコミュニケーションを行う力も高めていきたい。

6 教材(題材, 単元)の目標

- (1) 現在完了形(経験用法), make+(代)名詞+形容詞, SVOO(that 節)の特徴や決まりに関する事項を理解する。
- (2) 障がい者スポーツについての他者の意見を知り, 自分の意見や考えを伝えるために, 英文の概要, 要点を捉える。
- (3) 障がい者スポーツについての他者の意見を知り, 自分の意見や考えを伝えるために, 英文の概要, 要点を捉える。
 - ・書かれている内容に対しての自分の気づきや考えを表現しようとする。

7 指導計画(全10時間)

時	学習内容
1	現在完了形(経験用法)の導入と練習
2	現在完了形(経験用法)の疑問文・否定文の導入と練習

3	make+(代)名詞+形容詞の導入と練習
4	Unit 1 Scene 1 の内容理解
5	Unit 1 Scene 2 の内容理解
6	Unit 1 Read & Think 1 の内容理解① (本時 6/10)
7	Unit 1 Read & Think 1 の内容理解②
8	Unit 1 Read & Think 2 の内容理解①
9	Unit 1 Read & Think 2 の内容理解②
10	Unit 1 のまとめ

8 本時の目標

○書かれている英文に関する質問を5つ以上考えることで、概要を捉えることができる。

9 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1. 導入 (15分)</p> <p><input type="checkbox"/> あいさつ</p> <p><input type="checkbox"/> すらすら英文 本題材で学習する文法事項の定着を図る。 ペアで一人が日本語を言い、もう一人がワークシートを見ずに日本語を英文にして答える。</p> <p><input type="checkbox"/> 前時の復習 Kahoot を用いて、Scene 2 に関する問題に答える。</p> <p>2. 展開 (25分)</p>	<p>○起立し、お互いの声が聞こえるように向かい合って行うよう指示する。</p> <p>○本時の課題につなげるために疑問文とその応答文の練習を取り入れる。</p>
<p>【課題】 質問に答えていくと、朝美が発表したことが理解できるような問いを5文作る。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 教科書 P.12 の英文を黙読し、内容に関する問い(疑問文)を5文作る。</p> <p><input type="checkbox"/> ペアでそれぞれの作った疑問文を用いて質問し合う。</p> <p><input type="checkbox"/> 本文の概要を確認する。</p>	<p>○コミュニケーションの場面では Yes/No だけで答える疑問文でのやりとりばかりではないことを想定し、疑問詞を用いた疑問文を2つ以上は作るように伝える。</p> <p>○机間指導を行い、作ることができていない生徒にはヒントカードを渡す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ヒントカード</p> <p>①am/is/are/was/were は主語と順番を入れかえたらいい。</p> <p>②Has he 過去分詞?</p> <p>③Can/Do/Does 主語+動詞の原形</p> </div> <p>○ロイロノートを活用し1枚に1文書き込ませる。</p> <p>○日本語で行う。</p>

<p>3. まとめ</p> <p>□ロイロノートのとまとめシートに本時の学習で分かったことを記入する。</p>	<p>◆本時では記録に残す評価は行わない。 後日、単元テストを行い、評価を行う。</p>
---	--

10 授業分析

○考察

この授業では、3年生最初の Unit であり、これまでより長い英文が書かれた Read & Think 1 を扱った。初めて見る英文に関して、既存の知識をもとに疑問文を作らせることで、自分の力でわからないことがあっても、内容を理解しようとする力を育てていきたいと考え、本時の課題を設定した。なかなか疑問文を作ることができない生徒が見られたため、設定していた時間より長く考える時間をとった。英語を苦手と感じている生徒も2文は疑問文を作ることができた。英語を得意だと感じている生徒は単に書かれた英文を Yes/No で答えられる疑問文に替えるだけでなく、疑問詞を用い、内容に関して読者はどう考えるかを問う疑問文を作ることができた。交流の場面では内容に関する視点や、文法的な視点に関してお互いに参考になっている様子が見られた。

○成果と課題

今回の活動を通して、生徒は疑問文を作成するために繰り返し本文を読み、内容を理解しようとすることができた。また同時に既存の知識を活用し疑問文の形に留意することもできた。しかし課題理解の説明が不十分だったため、本文中の朝美が話したことの概要を捉えた疑問文になるのかについてを意識させることができなかった。また概要を捉えるとは、どういうことを丁寧に説明する必要がある。

生徒はこれから上級学校の入学試験で、初めて見る英文に関してわからないことがあっても理解しようと読み続けることができる力を育てていくことが必要だと考える。その力を育てるための一つの提案である。今回の課題を受けて、書かれている英文を文法的に正しく読み取ろうとすることができるように、行間を読み自分の考えを表現しようとする力を育てるよう、さらに授業構想力を高めていきたい。